

瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会平成22年度総会プログラム

会場：ホテルグランフォーレ
(愛媛県 四国中央市)

5月28日(金)

【開 会】 13:00～13:30

開会挨拶	協議会会長 (大竹市長)	入山 欣郎
来賓挨拶	国土交通省 大臣官房技術参事官	山縣 宣彦
歓迎挨拶	愛媛県知事補佐官	永野 英詞
	四国中央市長	井原 巧

【第1部】 13:30～14:05

議 事

議長選出 (上村俊之 上島町長)

- 1号議案 平成21年度事業報告について
- 2号議案 平成21年度収支決算報告について
- 3号議案 アクションプラン実施状況について
- 4号議案 平成22年度事業計画(案)について
- 5号議案 平成22年度収支予算(案)について
- 6号議案 アクションプラン実施計画(案)について
- 7号議案 平成23年度総会開催地等(案)について

【第2部】 14:35～17:10

第4回瀬戸内海首長サミット

<題 名>「競争力のある地域を目指して～産業振興、観光を活かした地域振興～」

話題提供	国土交通省大臣官房技術参事官	山縣 宣彦
司 会	国土交通省四国地方整備局次長	西本 光宏
参加者	会員市町長、国土交通省大臣官房技術参事官 四国運輸局、地方整備局幹部	

平成22年度総会報告

平成22年5月28日（金）愛媛県四国中央市ホテルグランフォーレにて、瀬戸内・海的路ネットワーク推進協議会平成22年度総会が開催されました。総会には瀬戸内海地域全体の更なる振興と発展を図るために、近畿・中国・四国・九州から会員である11市町長を含め約100名もの担当者が参加して盛大に開催されました。

総会は二部で構成されており、第一部では昨年度の活動報告及び平成22年度事業計画やアクションプラン実施計画等について審議を行い、第二部では11市町長に各地方整備局幹部、四国運輸局、国土交通省幹部を交え、「競争力のある地域を目指して～産業振興、観光を活かした地域振興～」をテーマとして第4回瀬戸内海首長サミットを行いました。



総会ではまず始めに協議会会長である入山欣郎 大竹市長から、「昨年の通常総会で決議された協議会の活動方針アクションプランに基づき、環境事業委員会での瀬戸内海の自然環境を維持、再生するための取り組み、魅力検討委員会での瀬戸内海の魅力をPRする取り組み、情報発信委員会での協議会ホームページの充実を図るための取組み活動によるもの他、クルーズ船誘致に伴う歓迎や出港のイベントなど、瀬戸内海地域の交流・連携、地域振興を進めていく上での他の会員の模範となる活動へ支援する取り組みも積極的に行われている。我々の生活に非常に関わりの深い瀬戸内海は、美しい景観、多くの歴史や文化遺産など、様々な優れた要素を併せ持つ日本の貴重な財産であり、この瀬戸内海を全国から注目され、多くの人で賑わう地域にしていくためには、我々瀬戸内地域の自治体がしっかりと連携し、広域的な観点から、瀬戸内海の多彩な魅力を結ぶネットワークとしての取り組みを一層推進していくことが重要。本協議会活性化のため、多くの方々に瀬戸内に注目していただけるような取り組みを進めてまいりたい」との開会の挨拶により始まりました。

続いて、山縣宣彦 国土交通省大臣官房参事官から、「国土交通省成長戦略の中で”海洋立国日本の復権”あるいは”観光立国の推進”といったことがあげられており、こういった取り組みの中で皆さんと一緒にやっていく港湾行政が大きな柱になる。瀬戸内海という古くから海上交通の場として栄えてきた場所には臨海部における産業の立地、海上交通ネットワーク、あるいはその自然、景観、歴史的等、いろいろなポテンシャルがあり、港湾関係の色々な施策を打つ意味で、この瀬戸内海地域と言うのは非常に可能性のある地域ではないかと認識しているところ。平成3年にこの協議会が発足し今年で20回ということで、市町村あるいは県レベルでいろいろな取り組みがなされてきた。こういう取り組みの中で皆さんが力を合わせて瀬戸内海の発展のためご尽力頂きつつ、協議会を通じて瀬戸内海地域が発展することを祈念している。」との挨拶を頂きました。





永野英詞 愛媛県知事補佐官からは、「瀬戸内・海的路ネットワーク推進協議会をこの愛媛県で開催して頂き心から感謝申し上げますとともにご来県の皆様方を心から歓迎申し上げます。皆様方には平素より瀬戸内地域の振興、あるいは清掃活動など多彩な取り組みをされており、心から敬意を表しますとともに感謝申し上げます。また、国土交通省におかれましては、私ども、港湾・海岸行政に平素、格別のご指導ご援助を賜っており、この場を借りて心から厚く御礼を申し上げます。」との挨拶を頂きました。

開催地である井原巧四国中央市長から、「来賓の皆様方、瀬戸内海沿岸の各市町長、そして関係者の皆様方が、ここ四国中央市において頂いたこと、瀬戸内海という日本の第1号国立公園の周りで歴史を刻んで生活している我々がその同じ思いと、そして豊かな資源を共有する仲間が集まってこの協議会が開かれることは大変有意義なことであり、また当市をお選び頂きましたことに心から感謝を申し上げます。四国中央市は港の恩恵をもっとも受けている地域であり、ここへ大きな港が整備されたおかげで、大量輸送、低コストが実現し、四国という田舎にありながら競争力を持って今、日本一の紙の産地が形成でき、港そして海のありがたさを嫌と言うほど感じている。第2部の首長サミットで瀬戸内海それぞれ同じ海の恩恵、資源を持っている仲間が相集い、交流と連携を深めて議論を進めることは大変有意義なこととであり、それぞれの地域の抱える課題が、この会合で一つの明かりとしてその方向性が見いだせればと期待している。」との挨拶を頂きました。



第一部 議事について



第一部では、議長に選出された上村俊之上島町長の議事進行により、平成21年度の事業報告及び平成22年度の事業計画など7議案について審議を行いました。平成21年度総会で決議されたアクションプランについてその後の実施状況や、今年度より瀬戸内海クルーズ振興活動の支援として新たに始める「クルーズ船寄港地歓迎イベント支援」、H22年度以降のアクションプラン実施計画、平成23年度総会を広島県大竹市で開催することなど各議案が決議されました。

第二部 「第4回 瀬戸内海首長サミット」について

瀬戸内海地域は、古来より海上交通の場として栄え、独自の社会・経済文化圏を形成し、我が国の発展にも寄与してきた一方で、人口減少、少子高齢化、財政制約といった不安要因に直面しており、こうした背景があるからこそ、地域が主体となり、連携を深め、瀬戸内沿岸地域が有している臨海部の産業集積、フェリー等海上交通のネットワーク、豊かな自然環境、優れた景観や文化、災害時における海上輸送を利用した広域連携の可能性など多様なポテンシャルを活かした地域づくりが求められています。

そこで、冒頭に、山縣宣彦国土交通省大臣官房参事官より、「競争力のある地域を目指して」と題して、港湾局の主要政策課題や国土交通省成長戦略での優先事項、国際コンテナ戦略港湾と国際バルク戦略港湾の検討状況、臨海部における工場立地の動向などの紹介、また港湾を核とした様々な地域振興の取り組みについて話題を提供していただきました。

その後、「競争力のある地域を目指して ～産業振興、観光を活かした地域振興～」と題して市町会員（各首長）、国会議員（地方整備局幹部、四国運輸局）に国土交通省大臣官房技術参事官を交え、西本光宏四国地方整備局次長の司会により、瀬戸内沿岸地域が有している臨海部の産業集積、フェリー等海上交通ネットワーク、自然環境、景観や文化、災害時における海上輸送を利用した広域連携の可能性など多様なポテンシャルを活かした地域づくりについて議論し、協議会として各会員が連携して取り組む具体的内容について2つの提言を決議しました。



「競争力のある地域を目指して ～産業振興、観光を活かした地域振興～」に関する提言

瀬戸内海地域は、古来より海上交通の場として栄え、独自の社会・経済文化圏を形成し、我が国の発展にも寄与してきた。一方、現在我が国の状況を振り返ると、人口減少、少子高齢化、財政制約といった不安要因に直面している。こうした背景があるからこそ、地域が主体となり、連携を深め、瀬戸内沿岸地域が有している臨海部の産業集積、フェリー等海上交通のネットワーク、豊かな自然環境、優れた景観や文化、災害時における海上輸送を利用した広域連携の可能性など多様なポテンシャルを活かした地域づくりが求められる。

平成22年5月、国土交通省成長戦略が発表され、この中で今後さらなる発展が期待できる分野として、「海洋立国日本の復権」「観光立国の推進」などが柱とされた。瀬戸内海における海洋分野、観光分野は、まさにこの成長戦略を担うに相応しい、歴史とポテンシャルを有しており、今後の発展が求められるところである。

こうした状況を踏まえ、当協議会では会員相互の連携のもと、今後も海の路の役割について重要性を認識し、広く社会に呼び掛けるとともに、瀬戸内海沿岸の地域における更なる地域の活性化、発展を目指し、以下の取り組みを進めていく。

①瀬戸内海沿岸の地域には、その地域の活力を担うとともに我が国の経済活動を支える産業が集積している。また、それぞれの港湾は、フェリーや内航船、外航船により、物流コストの低減に貢献する国際および国内貨物輸送の重要な役割を果たしている。

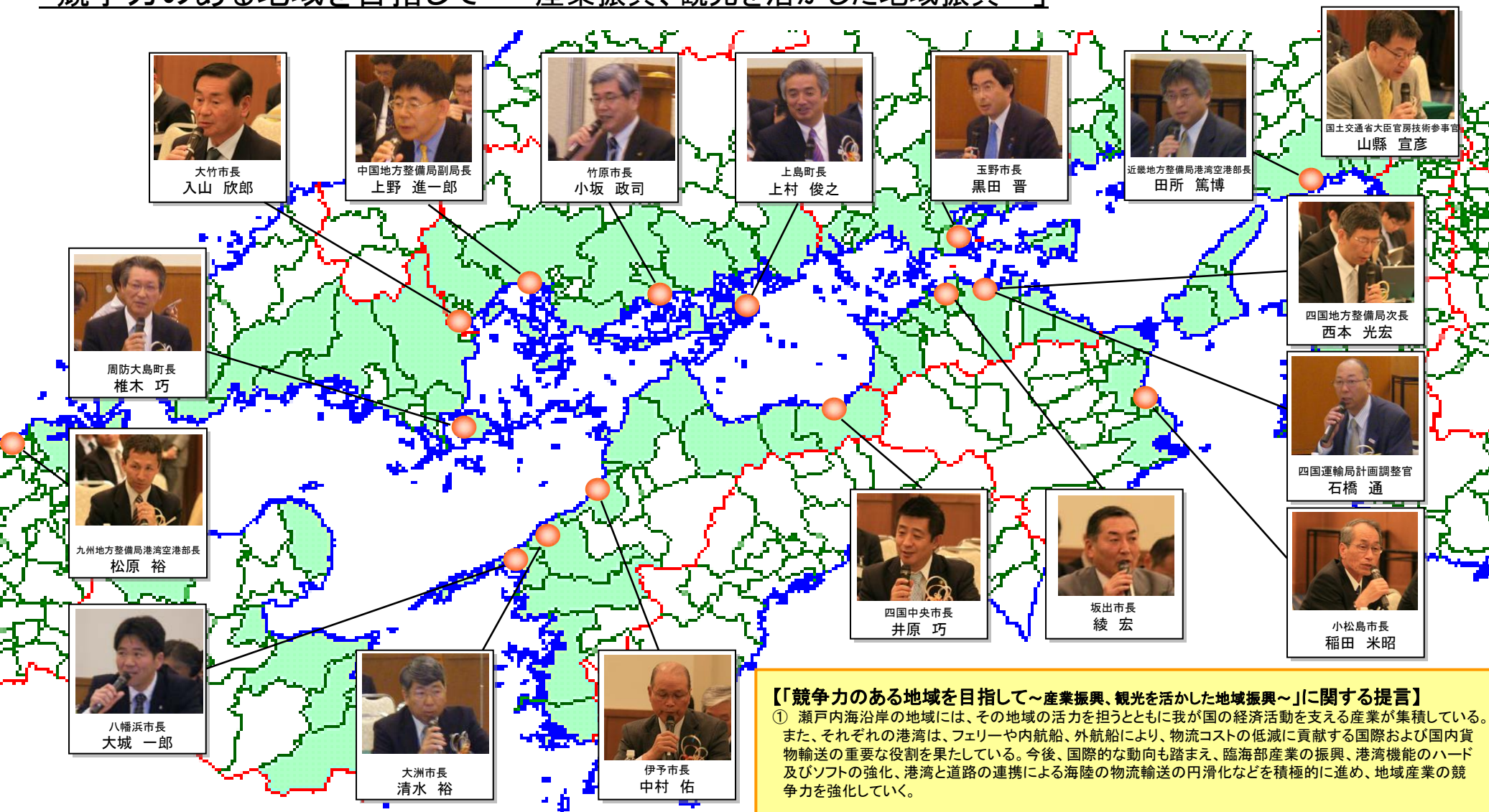
今後、国際的な動向も踏まえ、臨海部産業の振興、港湾機能のハード及びソフトの強化、港湾と道路の連携による海陸の物流輸送の円滑化などを積極的に進め、地域産業の競争力を強化していく。

②瀬戸内海には、豊かで風光明媚な自然、歴史遺産、文化、多くのフェリー航路などがあり、体験型観光、滞在型観光、スローライフ、マリンスポーツを満喫できるポテンシャルに満ちている。また、こうした観光資源は、海外からの観光客にとっても大変魅力のある資源である。

今後、こうした観光資源を活かし、それぞれの地域が連携し、観光ルートのパッケージ化、観光イベントの開催、クルーズ観光やインバウンド観光の推進、情報の発信、環境保全や創造、フェリー航路の維持により、人々や文化の交流拡大を図る。

第4回 瀬戸内海首長サミット 参加者

「競争力のある地域を目指して ～産業振興、観光を活かした地域振興～」



【「競争力のある地域を目指して～産業振興、観光を活かした地域振興～」に関する提言】

- ① 瀬戸内海沿岸の地域には、その地域の活力を担うとともに我が国の経済活動を支える産業が集積している。また、それぞれの港湾は、フェリーや内航船、外航船により、物流コストの低減に貢献する国際および国内貨物輸送の重要な役割を果たしている。今後、国際的な動向も踏まえ、臨海部産業の振興、港湾機能のハード及びソフトの強化、港湾と道路の連携による海陸の物流輸送の円滑化などを積極的に進め、地域産業の競争力を強化していく。
- ② 瀬戸内海には、豊かで風光明媚な自然、歴史遺産、文化、多くのフェリー航路などがあり、体験型観光、滞在型観光、スローライフ、マリンスポーツを満喫できるポテンシャルに満ちている。また、こうした観光資源は、海外からの観光客にとっても大変魅力のある資源である。今後、こうした観光資源を活かし、それぞれの地域が連携し、観光ルートのパッケージ化、観光イベントの開催、クルーズ観光やインバウンド観光の推進、情報の発信、環境保全や創造、フェリー航路の維持により、人々や文化の交流拡大を図る。